

(様式1)

## 平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 131	提案機関名 神奈川県内水面漁連
要望問題名 アユの資源増殖技術の確立について	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 毎年、アユ資源を保護・培養し、産卵場を造成し、相模湾産アユの資源増大に努めています。しかしながらこれら事業を体系的に整理し、数値目標を掲げて、増殖をして行くための技術確立が必要と考えます。これら、資源増殖技術期の早急確立を実現願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内 <input type="checkbox"/>
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。(提案者は記載不要)

回答機関名	水産技術センター	担当部所	内水面試験場
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>これまで長期にわたってアユの資源増殖研究が全国的に実施されておりますが、数値目標を掲げて増殖手法を体系的に検討するというアプローチは、最近になって幾つかのごく小規模河川において実施され始めたばかりです。このようななか、相模湾産アユの資源増大を目的とする場合、様々な規模の複数河川が広範囲に対象となりますので、相応の実施体制や対処年数、新規技術開発等が必要になります。まずは、産卵場造成手法の確立・普及から開始することが次善の策と思われれます。</p> <p>昨年度は、貴連合会が実施する産卵場造成事業において調査協力を行いました。産卵場造成手法を確立するためには、このような事業を数年間継続する必要がありますので、今後も調査協力などにより対応をしてみたいと考えております。</p>		
解決予定年限	①□1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内 <input type="checkbox"/>		
備考			